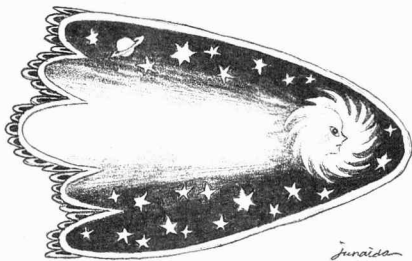


朝日歌壇俳壇



〈日曜日のプロローグ 20〉 junaida

俳句時評 子規の「非空非実」

岸本 尚毅

正岡子規の『俳諧大要』(岩波文庫)が四十二年ぶりに再刊された。「最良の俳句入門書」(復本一朗)とされるこの本のなかで、子規は「空想と写実と合同して一種非空非実の大文学を製出せざるべからず」と説いた。

赤い椿白い椿と落ちにけり 碧梧桐
流れ行く大根の葉の早さかな 虚子
一見相反する「空想」と「写実」が、子規没後、河東碧梧桐や高浜虚子などの作や論においてどう展開したか。この観

点から近代俳句を表現史的に論じたのが井口時男『近代俳句の初志』(コールサック社)だ。写実に偏した虚子へのアンチテーゼともいうべき、たとえば「蝶墜ちて大音響の結氷期 富沢赤黄男」のような作を生んだ昭和の「新興俳句」。それこそが、子規のいう「非空非実」の実践だと本書はいう。この視点は、従来の俳句史には見られなかったものだ。

俳句史は表現史であり、俳壇史でもある。各地の俳壇はそれぞれ独自のダイナ

第26回現代俳句協会年度作品賞 横浜市の、なつはづきさん(57)の「朱夏」(30句)と栃木県佐野市の水口圭子さん(78)の「消えるため」(30句)に決まった。

片山由美子句集「水柿」 「香雨」主宰の第7句集。「開かるること待つ扉大旦」「露けしや鍵に公私のあることも」「たたむとき昔のにはふ日傘かな」(ふらんす堂・3080円)

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のほかがき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます(週1回以下作品まで)。

近きまですと言つて母の喉が動きゆくり止まるをじつと見ていた(佐世保市) 近藤 福代

☆「生きるため死体の上を歩いたの」 ばあち

やんと僕が出会えた理由(筑後市) 近藤 史紀

阿弓流為は己が足にて陸奥ゆ京まで歩きぬ首刎ねらるるため(多摩市) 豊間根則道

伏せ鉄は座礼するやう立て鉄は黙禱するやう八月の星は(焼津市) 増田謙一郎

蛤を買い料理する手に吸盤が命乞いかな吸いて離れず(東大阪市) 志賀 克毅

かたちよく亡き子の爪切りその母は通い慣れたる病棟を去る(三浦市) 秦 孝浩

三十六年染しんだけれど同僚や生徒の自死ある世界でもあった(岡山市) 山本 昌子

裸子を五人あづかり怪獣の名をつけ放つ噴水の中心(長野県) 千葉 俊彦

百点の答案用紙をさるにきとりのからあげあげているママ(成田市) かとうゆみ

親と会う朝に白髪をぬいておく髭は伸ばしたままにするけど(浜松市) 尾内甲太郎

【評】一首目、着取りとは全身全霊で見守ることなのだ。二首目、戦争の実感が世代を超えて伝わる。三首目、陸奥の「王」の矜持が偲ばれる。四首目、鉄も礼を尽くす原爆忌だ。九首目、本当は飾っておいて欲しかったのに、と見つめている。

丸ごとのスイカかかえて急ぐ道一人暮らし子規今日の帰省する(東京都) 渡辺 美香

その昔牛小屋ありし母屋には今はチワワがエアコンぐらし(さいたま市) 中村 敬子

人生の半ばで手話を習得しコミュニケーション楽しむ友は(京都府) 武内千賀子

高層の老人ホームの裏に住み老い五百余に一度も逢はず(浜松市) 松井 恵

禁酒して酒飲みがみな馬鹿に見ゆその馬鹿者に戻る日を待つ(加東市) 藤原 明

夏バテで餌を食べない豚たちは出荷されずに命を守る(東京都) 関戸 裕二

サーフィンのメッカ日向市の児童らは波乗り学ぶ体育のあり(延岡市) 片伯部つ子

☆ペットボトルに四万十川の水を汲み父母の墓に参る真夏日(岡崎市) 兼松 正直

原爆を見てきたように語り出す茶髪にピアスの高校教師(始良市) 井之川健児

米屋、酒屋、八百屋、魚屋、佃煮屋、肉屋、豆腐屋、みな焼けし夏(東京都) 上田 国博

【評】第一首、一人暮らしだと、なかなかスイカを食べるチャンスがないのだろう。第二首、四、五十年むかしまでは、母屋で農耕用の牛を飼っている家もあった。第三首、中年すぎに手話を習得した友人の新鮮な毎日が目にうかぶ。

大根と鯖に生きる岬の果て利休屋の雨を乞う日々(三浦市) 秦 孝浩

歌壇欄「ひと世の要は妻選び」読みて思わす遺影見つむる(那珂市) 阿久津利江

限界の限まで達してフチ家出月と話して介護に戻る(中央市) 江熊佳代子

イチローの殿堂入りに語り継ぐ振り子打法とレーザースペース(習志野市) 元杉 紀雄

「メロンパン」夜空にひらく大輪の花火指さし叫ぶ幼は(木津川市) 角谷 陽子

喧騒の花火は果てて悠久の三角あり真夜の半(札幌市) 田巻 成男

いい事とそうじゃない事あった日のシメにしみじみ食べるエクレー(富山市) 松田 わこ

ベトナムの人が麵茹でミヤンマーの人が天麩羅揚げ蕎麦店(朝霞市) 岩部 博道

石製の梵鐘吊り下げ八十年愚かな戦禍の語り部として(東根市) 庄司 天明

米中のどちらでもなく中立で武装もしない日本にしたい(朝霞市) 堀内 碧

【評】1 首目、農業や漁業の人々が暮らす三浦半島で日照りが続き、人々は白秋の詩「城ヶ島の雨」にある利休屋の雨を待っている、と。2 首目、8月3日の篠原俊則さんの作を読んだ直後の反応。10 首目、小学六年生の作者の切々たる願い。

バス停の椅子に座りて泣くための五分早目に父にさよなら(佐世保市) 近藤 福代

八十年故国目指して海底を歩ける友の未だ着かざる(西宮市) 市橋 昌己

まつろはぬ民と呼ばれて阿弓流為の踏みし夏原葛藤ふ原(多摩市) 豊間根則道

本名を名乗ることなくペンネーム墓碑に残せしハンセン病歌人(石川県) 龍上 裕幸

☆ペットボトルに四万十川の水を汲み父母の墓に参る真夏日(岡崎市) 兼松 正直

地下鉄のない熊本で阿蘇山を仰ぎ冷たき地下水を汲む(熊本市) 貴田 雄介

泣き出せば止まらない恐れアメリカにもう少しがまんもう少し頑張る(アメリカ) ソラー 泰子

☆「生きるため死体の上を歩いたの」 ばあち

やんと僕が出会えた理由(筑後市) 近藤 史紀

どの駅にも駅長がいたあのころは朝露踏んで駅へ急いだ(鳥取県) 表 いさお

下駄を履き髪をなびかせキャンパスを闊歩していた学生時代(守谷市) 久保田洋一

【評】近藤さん、父を置いて帰らざるを得ない悲しみ。バス停で一人泣くための、涙が収まるまでの五分。市橋さん、南の海に没したままの戦友。今も故国を目指しているはずだと思いたい。十首目久保田さん、私も全く同じパンカウ学生だった。

川野里子選

佐佐木幸綱選

高野公彦選

永田和宏選

風信